

細腕なんて言わせない!!

301



「毎日ね、明るくなったらもう、農作業。あの震災と原発事故後は売れず、つらかったけど、今はなんとか頑張っていますよ」と、明るく続ける木田さん

作物の成長楽しみなのよ

「朝、明るくなったら農作業」と話す 木田 テイ子さん

■新舞子ファーム・キダ代表
■いわき市平下大越字細田一〇一ノ一

電話／〇二四六―三四―二六八一

「朝、明るくなったら農作業だね。何時（いつ）とは言わず、とにかく明るくなったらだよ。でも、あの原発事故で野菜が売れなくなった時はつらかった。三人の子どもたちの教育もしなければならなかったしネー」

十年前の東日本大震災に伴う混乱期を振り返りつつ、自らの農業・商品づくりについて語る、木田テイ子さん（七十二）。田人町旅人の農家に生まれ、二十三歳で増男さん（八一）と結婚。二人三脚で農事に精を出す傍ら、独自の方法でイチゴ栽培などにも挑戦を続ける。

土壌改良、連作障害対策や病気予防に効果的と言われる、市内で唯一の竹パウダーを利用。こうして生まれたのがブランドイチゴ「いわきの女王」だ。サイズも大きく、糖度は一八・六度を記録し、メロンの甘さに匹敵する商品となった。そんな味、コクとも上品な「女王」は、評判を呼び、銀座のフレンチレストランや京都の老舗料亭など市外の有名店からも注文が相次いだ。

木田さんは農家で育ったことで、農業には関心が深く、結婚前は国内留学で関連知識を学んでいる。「愛知県へ行き、一年間、農業のノウハウを勉強してきました。当時はシクラメンが人気であり、これらの研究もしてきました」と、研修時代を懐かしむ。

こうした勉強熱心、前向きな姿勢が認められ、現在は県女性農業委員会協議会の副会長、市の農業委員も務め、普及活動にも汗を流している。

ユニークなネーミング

農業は通年の仕事。木田さん宅でも春の田植え（一ヘクタール）に始まり、夏を迎えるころにはジャガイモ、インゲンなどのほか、「女王」と同様に人気のオリジナルブランド、トウモロコシの「白

馬王子」も市場に出荷する。粒は真っ白で、糖度（一九度）はもちろん、味もフルーツ的。「白馬」は今が盛りだが、併せて人気なのが「フルーツマト」。

自宅には直売所を設け、今が旬の「白馬」をはじめ、各種の野菜がいっぱい並んでおり、近隣から多くの人が訪れている、という。二十年前に「女王」、十五年前から「白馬」を世に送り出したきっかけは、有機栽培の指導を受けたことが始まりで、一連のユニークなネーミングは彼女の考案だ。

また、公的な団体の委員も務めていることから関連の会議への出席のほか、遊



休地の視察なども行い、「私、結構、忙しいんですよ。会議に出たり、あちこち回ったり。でもね、こうした機会は疲れるけど、みんなと意見交換できるからうれいんですよ。」



「若い時は離れ字もしました」

震災、原発事故後はとてもつらかった

張り切りすぎによる日々の疲労から二年前の春には脳出血で倒れ、入院も経験したが、「今はね、毎日リハビリのつもりで頑張ってます」と、笑う。

そんな木田さんは、「あの震災、原発事故以後は、都内や京都から「女王」の注文がなくなりました。残念です。それにしても、五輪、コロナ騒ぎを含め、最近の日本の政治はなにかおかしい」と、現況に表情を曇らせたものの、「農業はね、作物の成長が楽しみな。直売所でお客さんとの触れ合いも楽しいしね」と、笑顔を見せながら語っていた。

プロフィール

きだ・ていこ

1949年7月7日生まれ。田人町旅人出身。朗らかな人柄の木田さん、開口一番、「山の農家から浜の農家に来ちゃったのよ」。「イチゴは、12月から5月まで栽培中。直売所などで販売します」と、PR。「経営は、とんとん。でも、3人の子どもたちは全員大学を卒業させました」。得意な料理は、「産直」の野菜と、ジャガイモの煮物」。AB型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

※このコーナーは隔月掲載です。

< 一票に いわきのあしたを 託します >

いわき市長選挙



明るい選挙のイメージキャラクター「めいすいくん」

投票日：9月5日（日）

投票は、午前7時から午後7時（一部投票所は午後6時）までとなります。忘れずに投票しましょう！

いわき市選挙管理委員会・いわき市明るい選挙推進協議会

< 期日前投票 >

投票日当日に投票所に行けない場合には期日前投票をご利用ください。期日前投票は8月30日（月）から9月4日（土）まで。

お問い合わせ

いわき市選挙管理委員会事務局

Tel.0246-22-7532